オーディオ実験室収載

アナログプレイヤーの比較試聴(35)
－モーツアルトを聴く(35)－

１．始めに

前報(34)に引き続き、アナログプレイヤー3 機種の比較試聴を実施していきます。

２．アナログプレイヤーの比較試聴方法

アナログプレイヤー3 機種の試聴経路は、ThorensTD124 と Grrad401 の再生経路を変更した前報(18)と同様です。

音源は、モーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回は交響曲です。

EMI　AA9728-30

モーツアルト　交響曲第 35 番ニ長調
交響曲第 36 番ハ長調
交響曲第 38 番ニ長調
交響曲第 39 番変ホ長調
交響曲第 40 番ト短調
交響曲第 41 番ハ長調＜ジュピター＞

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ベルリンフィル

今回も、各プレイヤーにターンテーブルアキュライザーTACU-1 を使用していきます。また、LINN LP-12 の再生系では、ダンパーフレークの導入(1)で報告したダンパーフレークを 2 ケ所に適用しています。さらに、ダンパーフレークの導入(3)で報告した TruPhase から 300B アンプに介在させたバランスアナログアキュライザーの出力側へのダンパーフレークを適用しています。

さらにダンパーフレークの導入(5)で報告したとおり ThorensTD124 と Grrad401 のカートリッジシェルにもダンパーフレークを適用しています。

３．アナログプレイヤーの比較試聴結果

カラヤンのモーツアルトの後期交響曲の全集で、3 盤の 6 曲とも EMI、逆相、第 4 時定数 High で聴いていきます。

3 盤の 6 曲とも以下のような共通の印象です。

ThorensTD124 では、繊細さは不十分ながら、ドラマティックな展開はカラヤンらしいところがあります。音量が上がった時に粗さが目立つところもあります。

LINN LP-12 では、カラヤンらしく、ThorensTD124 より緻密な音になり、耽美的でありながら明晰でメリハリのある演奏です。

Grrad401 では、ThorensTD124 と同様、繊細さは不十分ながら、意外に緻密な展開を見せるところもあり、適度にドラマティックな展開はカラヤンらしいところがあります。

４．まとめ

ThorensTD124 と Grrad401 の再生経路を変更した結果も、3 機種 3 様の再生パーフォーマンスが確認できましたが、さらに、カートリッジのシェルへのダンパーフレークの適用効果もあって、すべてにおいて、グレード上がってきている印象です。

以上